


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 6 月 12 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科（5年一貫制）博士課程学生
氏名	大塚亮真

1. 派遣国・場所 （〇〇国、〇〇地域）	
神奈川県藤沢市 日本大学生物資源科学部	
2. 研究課題名 （〇〇の調査、および〇〇での実験）	
日本アフリカ学会第 53 回学術大会への参加	
3. 派遣期間 （本邦出発から帰国まで）	
平成 28 年 6 月 4 日 ～ 平成 28 年 6 月 5 日（2 日間）	
4. 主な受入機関及び受入研究者 （〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士／〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏）	
日本アフリカ学会	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 （研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由）	
<p>今回は日本アフリカ学会第 53 回学術大会へ参加するため、神奈川県藤沢市の日本大学生物科学部を訪れた。</p> <p>【日程】 6 月 4 日：京都駅→新横浜→横浜→藤沢→六会日大前 アフリカ学会へ参加 6 月 5 日：アフリカ学会へ参加、六会日大前→藤沢→横浜→新横浜→京都</p> <p>今回参加した日本アフリカ学会では、私の所属する京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の先生方や学生が多く参加し、他にも他大学が他の研究機関などから多くの研究者が集まって口頭発表やポスター発表を行っていた。口頭発表の時間はそれぞれ 15 分であり（12 分が発表で 3 分は質疑応答）、限られた時間の中でもそれぞれの研究内容を発表し議論が行われていた。しかし議論の時間はきわめて短いため、発表時間の前後の交流の時間がとても重要であると感じた。もっと積極的に交流を深めることが出来ればなおよかったが、次回自分がアフリカ学会で発表する時は、このことを強く意識しようと反省した。</p> <p>会場はいくつかに分かれていて、そこから聞きたい発表を選択する仕組みであったため、すべての発表を聞いたわけではない。私が聞いた発表をテーマごとに述べると、紛争問題、難民問題、狩猟採集民の生態人類学的研究、アフリカの音楽文化研究、アフリカの野生動物保護と地域住民（住民参加型保全についてのフォーラム）、地理学、霊長類学などであった。住民参加型保全に関するフォーラムでは、自分の研究の関心に最も近い内容の話を聞くことが出来た。またそれらは日本の研究者たちによる最前線の研究成果であり大きな刺激を受けたとともに、そのフォーラムに参加した他分野の研究者からの鋭い指摘から新しい視点をいただいた。それ他の発表からは、各分野においてどのような疑問/問題が生じ、どのような研究がなされているかが明確となった。自分の研究分野と関係のない分野の発表もその方法や着眼点から学ぶことが多く、今後の研究に活かせるようなアイデアをたくさんいただいた。アフリカ学会に参加する人は分野がばらばらであるため、いかにわかりやすく魅力的に自分の研究を聞き手に伝えることが出来るかが大切であり、発表者はその点を意識して工夫しているように感じた。そのようなテクニックの部分でも参考になることが多かった。</p>	
 <p style="text-align: right;">学会から帰る途中で見えた富士山 感じ</p>	
<p>写真（必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの）の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p>	
6. その他 （特記事項など）	
アフリカ学会へは PWS の協力により参加することが出来ました。ご支援いただいた PWS に感謝申し上げます。	